

アメリカのcoloring bookを利用した食育ぬりえ絵本の
読み聞かせによる相互評価

柴 英里

論文

アメリカのcoloring bookを利用した食育ぬりえ絵本の 読み聞かせによる相互評価

Mutual Evaluation of Picture Books for *Shokuiku*, Applying American Coloring Books,
through University Students Reading Aloud to each Other

柴 英里 (高知大学教育学部)

Eri SHIBA

Faculty of Education, Kochi University, Kochi, Japan

ABSTRACT

The university students created original picture books for *Shokuiku* (food and nutrition education) using Monica Wellington's coloring books that are published in the United States for children over 4 years of age. These original picture books are potentially informative, useful, and enjoyable tools for *Shokuiku*. The purpose of this article is to describe the original picture books including the stories, the original ideas used in making the books, and the discovery of some things. As well as, exploring the mutual university student producer evaluation of each original picture book. The major findings of this study are as follows: (1) All of the original picture books for *Shokuiku* were highly evaluated both over all, and in terms of the pictures' prettiness. (2) The students evaluated the possibility of each original picture book being enjoyed and received well by children because of the simple story and content description of the food, nutrients, and/or recipes. (3) These books might be useful and available as tools for including children to acquire good eating habits and evoke feelings of gratitude for food and meals.

キーワード：食育、アメリカのcoloring book、食育ぬりえ絵本の製作、相互評価

1. 研究の背景と目的・方法

本研究では、食に関する言語・造形表現活動を通して豊かな感性を育むことを意図した食教育を行い、その効果と隘路について検討することを目的とした。そのために、将来教師として食育を指導する立場となりうる教育学部学生に(1)「食育ぬりえ絵本」を製作させて自己評価を行わせる、(2)製作した「食育ぬりえ絵本」を幼児に読み聞かせした後、学生同士でも互いに作品を読み聞かせして絵本の出来映えを相互評価させる、そして(3)保育士による「食育ぬりえ絵本」の読み聞かせ・評価を行う、という3つを柱として、「食育ぬりえ絵本」の食育における可能性について明らかにしたいと考えた。これらの柱を構成する要素は、①教育学部学生による食育ぬりえ絵本の製作、②食育ぬりえ絵本製作者による幼児への食育ぬりえ絵本の読み聞かせ、③食育ぬりえ絵本製

作に関する製作者の自己評価、④製作過程における留意点・幼児への読み聞かせにおける気づきについての自己報告、食育ぬりえ絵本製作者である学生同士による作品の読み聞かせ及び絵本の出来映えに関する相互評価、⑤保育士による幼児に対する食育ぬりえ絵本の読み聞かせ及び評価である。

本稿に先立ち、筆者は、アメリカで出版されているMonica Wellington著のcoloring book (New York: Dover Publications)^{註1)}を利用して教育学部学生に製作させた食育ぬりえ絵本の自己評価について小論にまとめた¹⁾。学生同士が協力して食育ぬりえ絵本を製作することにより学生の食育への興味が高まったことが明らかになった。また、食育ぬりえ絵本を製作する際には、「幼児が喜ぶ仕掛けや工夫をすること」、「幼児への食育のよい教材になること」、「幼児が喜ぶようなきれいな色

合いにすること」、「幼児にとっておもしろいお話にすること」といった、読み手である幼児への配慮に重点が置かれていたことが示された。

本稿では、はじめに、製作された食育ぬりえ絵本の概要について説明する。次に、上述した2つ目の柱と④に示したように、絵本製作過程において学生が留意した事項及び幼児に読み聞かせをした際の気づきと、食育ぬりえ絵本製作者である学生同士による互いの作品の相互評価結果について報告する。

1-1. 食育ぬりえ絵本の製作方法

2011年5月末から6月末に教育学部2年次生26人を2～4人からなる8つのグループに分けて、各グループに1冊ずつストーリー性のある独自の食育ぬりえ製作をさせた。これらの食育ぬりえ絵本は、市販されている白無地絵本（寸法：幅190×縦223×厚さ6mm）を台紙とした。白無地絵本の表紙はハードカバーで総ページ数は14ページ（見開きで7ページ）である。製作絵本の挿絵の質を確保するために、Monica Wellington著の5冊のcoloring book、すなわち「CUPCAKES」、「PIZZA」、「BREAKFAST」、「CHRISTMAS COOKIES」、「HEALTHY SNACKS」の場面やイラストを活用させた。食育ぬりえ絵本の「ぬりえ」は、これらのcoloring book（ぬりえ）を用いたことに由来する。絵本製作時の指示としては、①Wellingtonのものとは異なる独自性のある内容にすること、②例えば野菜の産地などの調べ活動を入れて探究的な内容にすること、③オノマトペを入れるなどして幼児に好まれるものにすること、そして④絵本のテーマとなっている料理・お菓子を実際に作り、レシピや写真を絵本の最後のページに貼り付けること、という4つの条件を満たすように伝えた¹⁾。

1-2. 食育ぬりえ絵本製作過程における学生の留意事項及び幼児への読み聞かせにおける気づき

2011年7月12日に、完成した食育ぬりえ絵本8冊を製作者である学生が持参し、H保育園で幼児に対して読み聞かせを行った。その後、8月2日には、絵本を製作したグループごとに、他グループに対する互いの作品の読み聞かせを行った。製作者同士の読み聞かせ後、製作過程において各グループが留意した点や幼児への読み聞かせを行って気づいた点などを自由記述式で回答してもらった。

1-3. 製作者による絵本の出来映えに関する相互評価の概要

製作された食育ぬりえ絵本が他の学生にどのように受け止められたのかを明らかにするために、絵本の出来映

えについて製作者同士による相互評価を行った。上述の「1-2. 食育ぬりえ絵本製作過程における学生の留意事項及び幼児への読み聞かせにおける気づき」に示した通り、8月2日に当該のグループの学生が読み聞かせをしている間に、聞き手となっている学生に13項目からなる相互評価用の質問紙に回答してもらった²⁾。この相互評価の詳細は下記の通りであった。

- (1) 調査年月日：2011年8月2日。
- (2) 調査対象者：食育ぬりえ絵本を製作したH大学教育学部2年次生26人（有効回答人数25人、回収率96%）。
- (3) 調査方法：製作した食育ぬりえ絵本の読み聞かせをグループごと（8グループ）に行わせ、聞き手となっている他班の学生に対して絵本に関する13の質問項目からなる相互評価の質問紙を配布し記入させた。8冊の絵本について、それぞれ22人前後の学生が評価した。
- (4) 調査項目：相互評価項目は以下の13項目であった。
 - Q1 「この絵本は、全体的に見て上手にできているか」（絵本の出来映え）
 - Q2 「この絵本の絵はきれいに描けているか」（絵の美しさ）
 - Q3 「総合的に見て、幼児に興味を持ち、喜びそうな絵本か」（幼児の絵本への興味）
 - Q4 「ストーリーは幼児がよく分かるものになっているか」（ストーリーのわかりやすさ）
 - Q5 「幼児にとってわくわくしたり、感動的な話になっているか」（感動的なストーリーか）
 - Q6 「作者の思いが伝わってくるような絵本か」（作者の思いの反映）
 - Q7 「幼児に実際に読み聞かせたくなるような絵本か」（読み聞かせに値する絵本か）
 - Q8 「幼児がいつまでももっていて、何度も読みたくなるような絵本か」（何度も読みたいか）
 - Q9 「（食に関する）あることを探究する内容になっているか」（探究的要素をもった絵本）
 - Q10 「絵本の中の料理を自分でも作ってみたいか」（料理づくりを絵本に入れた効果）
 - Q11 「読み聞かせによって、幼児によき食習慣をつけることができるか」（食習慣形成）
 - Q12 「読み聞かせによって、幼児に食を大切にしようとする気持ちが芽生えると思うか」（食の情意的側面）
 - Q13 「学びや遊びの要素を含みしかけなどが工夫された総合的学習教材か」（学習教材としての価値）
- (5) 分析方法：調査項目Q1～Q13について、単純集計を行った。

2. 結果

2-1. 製作された8冊の食育ぬりえ絵本の概要・特徴

製作された8冊の食育ぬりえ絵本の題目とあらすじは、表1の通りである。図1には、学生が製作した食育ぬりえ絵本の表紙を示した。

各絵本は、Wellingtonのcoloring bookの原画をうまく生かしながら、独自性のあるストーリーを展開していた。製作前に指示した通り、絵本の内容には食に関する調べ学習から得た知識が盛り込まれており、絵本の最後には絵本に登場した料理・お菓子のレシピと写真が載せられていた^{註3)}。また、カラフルな色使いや、飾り文字、シールやフェルト・布などの素材を用いたデコレーション、絵本に作られたポケットに入っている飾りを自由に取り出したり配置したりできるといった仕掛けなど、幼児が楽しめるような工夫が数多く組み込まれていた。

以上をまとめると、視覚的に見て楽しく、触って感触を確かめることができ、身近な食品や料理について簡単な問かけや説明があって、その上おもしろい仕掛けがあるというのが、今回製作された食育ぬりえ絵本の特徴であった。

2-2. 食育ぬりえ絵本製作過程における学生の留意事項及び幼児への読み聞かせにおける気づき

食育ぬりえ絵本製作にあたって留意・意識した事柄や、実際に幼児に読み聞かせをした際の気づきについて、食育ぬりえ絵本の製作グループごとに自由記述による回答を求めた。得られた回答を表2に示す。

以上のように、各グループは、食育ぬりえ絵本を製作する際の留意点と、実際に幼児に読み聞かせを行った際の気づきについて報告した。

テーマを選択する際には、幼児にどのようなことを伝えるかについて意見を交わして、幼児が喜ぶだけでなく食品や料理になじみ、理解を深めるような内容となるように留意していたことがわかる。また、それぞれがストーリーや色使い、素材、仕掛けなどを工夫し、視覚的・触覚的に幼児の関心を引き付けるよう工夫したと推察される。

幼児への読み聞かせを行った際の気づきとしては、絵本の仕掛けを工夫したことにより幼児の興味をひくことができたことが、絵本番号5、6、7、8の製作グループの回答からうかがわれる。ただし、絵本内容の難易度や、絵本装飾の脆弱性といった点で反省的なコメントもいくつか挙げられた。具体的には、絵本番号7や8の製作グループは、絵本の内容が幼児にとって難しかったりわかりにくかったりする部分があったことを指摘している。また、絵本番号6の製作グループは、幼児が仕掛けに興味を示したくさん触った結果、パーツが破損したこ

とを報告している。

2-3. 相互評価の結果

製作された食育ぬりえ絵本の学生同士の読み聞かせにおいて、聞き手側の学生に質問紙による相互評価を行わせた。具体的には、Q1～Q13の各質問項目に対して、5件法（強い否定の場合には1、やや否定的な場合には2、どちらともいえない場合は3、やや肯定的な場合は4、強い肯定の場合には5）で回答を求めた。

各食育ぬりえ絵本の項目ごとの得点を表3-1に、平均点を表3-2に示す。なお、「絵本1」、「絵本2」、「絵本7」の評価者数は22人、「絵本3」、「絵本4」、「絵本8」の評価者数は21人、「絵本5」、「絵本6」の評価者数は23人であった。

2-3-1. 絵本の出来映え (Q1)

Q1の「この絵本は、全体的に見て上手にできているか」という絵本の出来映えについての質問では、表最下段の総計の数値が示すように、評価者全員が「とてもそう思う」(85.7%)もしくは「ややそう思う」(14.3%)と答えており、全体の平均点では4.86という高得点になっている。8冊の絵本の全てが上手に製作されていると思われるっており、高い評価を得ている。最も評価が高かったのは「絵本3」と「絵本5」であり、全員が5点を与えていた。評価がやや低かったのは「絵本8」であるが、4.62点を得ている。

2-3-2. 絵の美しさ (Q2)

Q2の「この絵本の絵はきれいに描けているか」という絵の美しさについての質問では、表最下段の総計の数値が示すように、評価者全員が「とてもそう思う」(86.9%)もしくは「ややそう思う」(13.1%)と答えており、全体の平均点が4.87であった。このように8冊の絵本の全てが美しい絵で構成されていると思われるっており、とりわけ「絵本3」、「絵本4」、「絵本7」では、4.95点という高得点がつけられている。評価がやや低かったのは「絵本8」であるが、4.71点を得ている。

2-3-3. 幼児の絵本への興味 (Q3)

Q3の「総合的に見て、幼児が興味を持ち、喜びそうな絵本か」という幼児の絵本への興味についての質問では、表最下段の総計の数値が示すように、評価者全員が「とてもそう思う」(65.7%)もしくは「ややそう思う」(33.7%)と答えている。全体の平均点は4.63であり、とりわけ評価が高かったのは「絵本5」(4.96点)である。評価がやや低かったのは「絵本8」であり、4.12点であった。

2-3-4. ストーリーのわかりやすさ (Q4)

Q4の「ストーリーは幼児がよく分かるものになっているか」という話の展開についての質問では、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が65.7

表 1 製作された食育ぬりえ絵本の概要

絵本番号	題名 (製作者の人数)	あらすじ
1	SNACKS (3人)	ある日、あいちゃんとうくんは、チョコバナナとミックスジュースを作ろうとする。家には材料がなかったので、買い物に出かけることにする。市場に行くと、たくさんの食材が売られていたが、野菜と果物の区別に疑問を持つ。そこで二人は市場にある食材を使って野菜と果物の分類について学習する。その後、市場で購入した食材を使ってチョコバナナとミックスジュースを作り、友達にごちそうする。
2	クリスマスクッキー (3人)	クリスマスの日の朝、たろうとはなこはクリスマスのクッキーを作ることに。クッキー作りにはたくさんの砂糖を使用することに気づき、砂糖について調べる。おばあちゃんにも協力してもらいながらクッキーを焼き上げ、家族みんなで食べていると、そこへサントさんがやってくる。
3	PIZZA (4人)	ピザパーティーを開くことになり、姉と弟はピザを作る道具や材料を集めることに。ピザの上ののせる野菜と肉と卵は広島県産である。どこで何がとれるか見てみて材料が集まったら、まずは生地づくり。次に材料を洗って、切って、チーズを削る。思い思いに具をトッピングして、きれいに盛りつけたらピザをオープンに入れて焼く。ピザが焼き上がるまでに使った調理器具の後片付けをし、ピザが焼けたらみんなで食べる。
4	CUPCAKES (4人)	畑で育てた野菜を収穫する。収穫した野菜の中からニンジンを使ってカップケーキを作り、友達を呼んで、パーティーを開く。ニンジンが入ったカップケーキを食べて、ニンジン嫌いを克服する。食べたあとは後片付けをする。
5	おおきになりたいな (3人)	弟が姉に「どうしたらはやくおおきになれるの?」と尋ねる。姉は人間が成長するには5つの栄養素が必要であることを説明する。5つの栄養素をそれぞれ含む食材を示し、それらを使ったカップケーキを作ることに。姉と弟はカップケーキをたくさん作り、部屋を飾り付け、大勢の友達を呼び、パーティーを開く。さらに、姉は弟に5つの栄養素以外にも成長するためには、勉強、睡眠、遊ぶことが大切だと教える。
6	PIZZA (2人)	りょうちゃん(姉)とまーくん(弟)は料理本を読んで、ピザを作ろうと思いつく。畑から野菜をとり、ピザの具に。ピザ生地にトマトソース、具、チーズをのせて焼き上げる。できあがったピザを切り分け、みんなでおいしく食べる。食後は皿や道具をしっかりと洗い、後片付けをする。
7	あさごはん (3人)	2人の子どもが日頃の感謝を込めて、父親と母親のために朝食を作ることに。まずメニューを考える。食品の栄養機能によって大きく3つのグループに分けられることを学び、バランスの良い朝食を考える。スーパーへ材料を買いに行き、家に帰って祖母に手伝ってもらいながら、朝食を作る。最後に父親と母親に感謝の気持ちを伝えて、家族みんなで朝ごはんを食べる。
8	PIZZA (4人)	エミリーとジャックは家族のためにピザを作ることに。2人の従兄弟と一緒に、具材を切り、ピザ生地をこね、トッピングをしてオープンでピザを焼く。ピザは無事完成し、家族みんなでおいしく食べる。

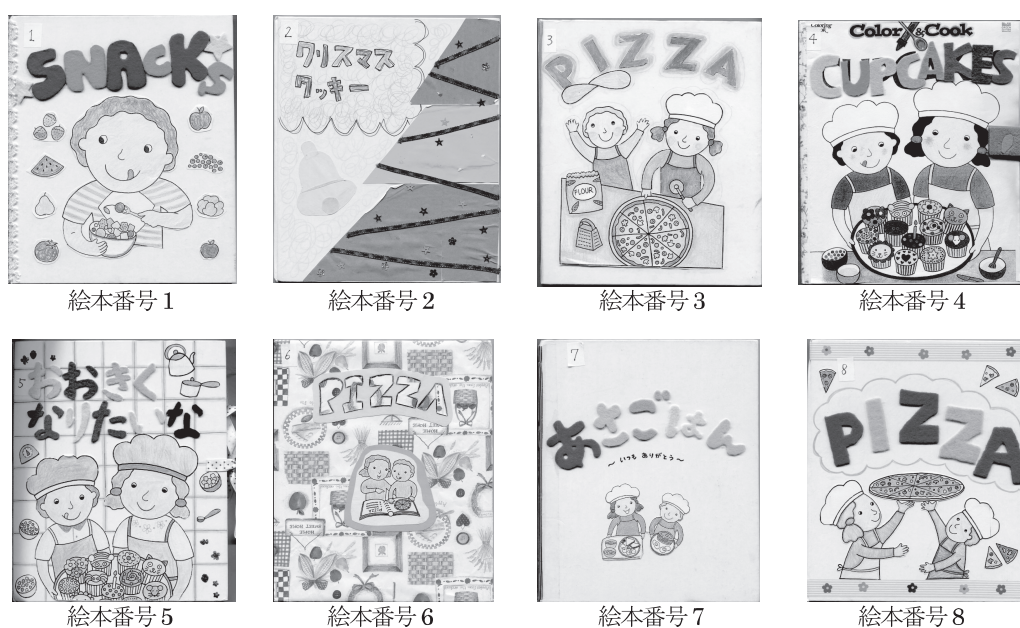


図 1 学生が製作した食育ぬりえ絵本

表2 食育ぬりえ絵本製作過程における留意事項及び幼児への読み聞かせにおける気づき

絵本番号 (題名)	食育ぬりえ絵本製作過程における留意事項・幼児への読み聞かせにおける気づき
1 (SNACKS)	今回、絵本を作るに当たって意識したことは、主に次の5点である。1つ目は大きな字で書くということである。小さな字で長い文章にするのではなく、大きな字で簡潔な文章にすることで、園児に私たちの絵本づくりの意図が伝わると考えた。2つ目は文章のリズムを一定に保つように、できるだけリズムのよい文章になることを意識した。その理由は、一つはあくまでも絵本であるからである。絵を見ただけで大体のストーリーが分かるのが絵本であると考えたため、文章は状況をよりイメージしやすくする程度にとどめた。もう一つは保育園に通う年齢の子どもは、言葉が急速に発達する段階にあるからである。何に対しても、読むとする傾向があると考えたので、子どもたちが自分で読み進めることができる程度の文章にした。3つ目は子どもたちが自然に学べるように意識した点である。時計をさりげなく描くことで、時間の経過と数字を子どもたちに意識させるように工夫したり、ぬりえの野菜や果物を用いて学習できるようにしたりした。4つ目は子ども達が直接、絵本に触れることができるようにしたことである。そのため、子どもが触れる部分には紙ではなく、フェルトやマジックテープなどを用いて、触れる素材の可能性を拡げた。触れたり、選んだりすることができることにより、実際の子どもの理解がどこまで及んでいるのかを確認しやすくなったと考えた。最後に5つ目はレシピの選択である。現在の時点で、子どもたちが親と共に作ることができるレシピを選んだ。また安全性を考慮して、ほとんど包丁を使わずにもよいレシピを選んだ。今回の絵本づくりで反省すべき点は、子どもたちがよく触れた部分が劣化したこと、学習に焦点を置いたので、場面の繋がりにおいてストーリー性が希薄になったということである。
2 (クリスマスケーキ)	幼児に分かりやすい絵本に仕上げるために、あらすじを単純化した。また、装飾品もさまざまな素材のものを使用し、幼児の興味を引くように考えた。しかしながら、絵本において仕掛けなどの遊びの工夫がなされていなかったため、改善の余地があると感じた。
3 (PIZZA)	製作したぬりえ絵本では、オノマトペ、協同学習、調べ学習という重要な要素を取り入れることにした。料理の様子、片付けなどから出る音「コネコネ」や「ジャブジャブ」などを入れることで、子どもたちはどのような動きかを意識した。また音を入れることで文章だけでは得られない情報をより簡略的に、かつ感情的に表現することができたように感じた。フェルトを使ってピザの生地と具を作り、みんなで盛り付けておいしいピザを作ろうということを図画した内容を盛り込んだ。保育園での子どもたちの様子を見ると、みんな大変興味を持って、考えながら盛り付けを工夫し、楽しんでた。調べ学習は「地産地消」をテーマに、ピザの具をすべて広島県内で取れるものを使うようにし、子どもたちに自分たちの住んでいる県内のものを使って、こんなにもおいしいピザが作れることを伝えた。この野菜はどこでとれるかな?というふうなクイズにすることで、子どもの印象に残るよう工夫した。子どもたちが「地産地消」を意識するように工夫した。製作においては4人で協力し、計画を立てて進めることができたように思われる。内容や書き方など、子ども達の視点に立てて考え、「これは理解できるかな?」「どのようにしたら興味を持ち、楽しんでくれるかな?」常に考えながら取り組めた。子どもたちが楽しみながら、料理を作る楽しさを感じ、たくさんのことを学び取って、自分たちの生活に取り入れてほしいということが私たちの願いであった。それを表現できた作品に仕上がったのではないかなと思う。
4 (CUPCAKES)	丁寧に色を塗ることを心がけた。擬音語や擬態語をたくさん入れることなど、さまざまな工夫を行うことができた。パーティーを行う場面では楽しい雰囲気を出すために、シールをたくさん貼ったり、いろいろな色でページを塗ったりするようにした。みんなで協力したり手分けしたりして、絵本の製作ができた。絵本の中でエンジン嫌いを克服するということで、栄養の考えを入れて、子どもの成長に役立つ物語になるように考えた。
5 (おおきになりたい)	実際に保育園に行き、読み聞かせをした際の園児の反応などから評価すると、ややよかったといったところではないかと思う。評価のマイナス要因となったのは、「作ってみよう!!ほくのわたしのカップケーキ」という遊び要素を入れたページに、その遊び方の説明が少なく、もし製作者が読み聞かせることなく、絵本のみを園児に与えたとすると、使い方が理解し難く、うまく遊べない可能性がある。しかし、一度遊び方が分かれば、食材ピースを入れたり出したり交換したりしながら子どもたちは何度も遊んでいたため、仕掛け自体は興味を引くものであったと思われる。中身だけでなくトッピングも選べるようにした点もよかったと思われる。物語の中の登場人物が子ども達に比較的近い年齢であったので、子どもたちにとって親しみやすい存在になったと評価できる。総合的に評価すると、ある程度成長した子どもや大人と一緒に幼児が読む場合にお薦めした絵本だと思われる。登場人物や取り扱っている内容なども子どもに親しみやすいものになっている。ただ、遊びの難易度の問題についてはもう少し改善の余地があると思われる。その他については上出来であると思われる。
6 (PIZZA)	今回私たちはどうしたら子どもが野菜に興味を持ってくれるのかを考え、野菜はどのように植えられているのか、野菜にはどのような栄養素が含まれているのかを調べ学習にした。実際に保育園で読み聞かせを行ったところ、幼児が絵本にとても興味を示してくれ、野菜の模型をしっかりと触ってくれた。しかし幼児が触っているうちに野菜の模型が壊れたりしたので、もう少し丈夫で安全な素材を使用すれば良かったと思った。
7 (あさごはん)	近年、朝食の欠食率の増加が問題となっている。そのため、朝ごはんの大切さ、特にバランスの良い朝食を取ることの重要性を知ってもらうことに重点を置いて、この食育ぬりえ絵本を製作した。具体的な仕掛けとしては、食品をその役割によって三つに分類し、それと照らし合わせながら、用意した食べ物イラストで朝食のメニューを考えられるようにした。実際、幼児に絵本を読み聞かせてみると、朝食のメニューを考えることや食品を三つに分けることには意欲を示したものの、三つの役割の区別や分類とメニューを組み合わせることはまだできないようであった。そのため、この絵本を改善するとしたら、欲得らず食品を三つに分けてみるというところまでにとどめておくこと、より幼児の理解が得られたのではないかと感じた。また、内容に期間をかけすぎてしまい、絵本の外観が簡素になってしまったので、もう少し装飾に工夫を凝らすとともに幼児が関心を持ってくれるのではないかと考える。
8 (PIZZA)	ぬり絵では子どもが興味を持ってくれるような色とりどりの色使いを心がけた。調べ学習のページでは幼児にとっては少し難しい内容になってしまったと思った。絵本なので、文字よりも絵などを取り入れた方がよかったように思う。また、実際に子どもたちの前で読んでみると、表紙のフェルト部分に触って楽しんでいたり、絵本の内容以外の絵に興味を示したりしていたように感じられた。もう少し子どもが興味を持てるような仕掛けや工夫をして、遊びの要素を取り入れるべきであると思った。しかし、ぬり絵自体や絵本の内容について、子どもとの対話を行うことができた。他の班の絵本の発表を聞いて、自分の班の絵本の改善できる場所を見つけたので、もし仮に、また同じようにぬりえ絵本を製作することがあれば、今回の反省を活かしてよりよいものを作りたいと思う。

%、「ややそう思う」が33.7%、「どちらともいえない」0.6%となっている。全体の平均点は4.65という高得点になっており、とりわけ評価が高かったのは「絵本1」(4.86点)である。評価がやや低かったのは「絵本8」であり、4.43点であった。

2-3-5. 感動的なストーリーか (Q5)

Q5の「幼児にとってわくわくしたり、感動的な話になっているか」というストーリーの質についての質問で

は、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が41.1%、「ややそう思う」が57.2%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均は4.39であり、他の質問項目と比べて高い数値とはいえない。そのような中でも評価が高かったのは「絵本5」(4.78点)である。評価がやや低かったのは「絵本8」であり、4.19点であった。

表3-1 製作者間における食育ぬりえ絵本の相互評価(1)

絵本番号	得点	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	計 (Q1-Q13)
1	5	20 (90.9%)	18 (81.8%)	19 (86.4%)	19 (86.4%)	10 (45.4%)	13 (59.1%)	21 (95.5%)	16 (72.7%)	18 (81.8%)	14 (63.7%)	5 (22.7%)	2 (9.1%)	19 (86.4%)	194(67.9%)
	4	2 (9.1%)	4 (18.2%)	3 (13.6%)	3 (13.6%)	12 (54.6%)	8 (36.4%)	1 (4.5%)	6 (27.3%)	4 (18.2%)	7 (31.8%)	14 (63.7%)	18 (81.8%)	3 (13.6%)	85(29.7%)
	3	0	0	0	0	0	0	1 (4.5%)	0	0	0	2 (9.1%)	2 (9.1%)	0	5(1.7%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (4.5%)	1 (4.5%)	0	2(0.7%)
2	5	15 (68.2%)	16 (72.7%)	9(40.9%)	13(59.1%)	8(36.4%)	8(36.4%)	8(36.4%)	6 (27.3%)	12(54.5%)	13(61.9%)	5 (22.7%)	4(18.2%)	7(33.35)	124(43.7%)
	4	7 (31.8%)	6 (27.3%)	13(59.1%)	8(36.4%)	13(59.1%)	14(63.6%)	14(63.6%)	16 (72.7%)	10(45.5%)	8(38.1%)	15(68.2%)	16(72.7%)	13(61.9%)	153(53.8%)
	3	0	0	0	1(4.5%)	1(4.5%)	0	0	0	0	0	2 (9.1%)	2 (9.1%)	1(4.8%)	7(2.5%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	5	21 (100%)	20 (95.2%)	19(90.5%)	14(66.7%)	7(33.3%)	8(38.1%)	15(71.4%)	14(66.7%)	13(61.9%)	13(61.9%)	2(9.5%)	5(23.8%)	19(90.5%)	170(62.3%)
	4	0	1 (4.8%)	2(9.5%)	7(33.3%)	13(61.9%)	13(61.9%)	6(28.6%)	7(33.3%)	7(33.3%)	8(38.1%)	14(66.7%)	11(52.4%)	2(9.5%)	91(33.3%)
	3	0	0	0	0	1(4.8%)	0	0	0	0	0	5(23.8%)	5(23.8%)	0	12(4.4%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	19 (90.5%)	20 (95.2%)	11(52.4%)	15(71.4%)	5(23.8%)	11(52.4%)	16(76.2%)	10(47.6%)	9(45.0%)	13(61.9%)	9(42.9%)	7(33.4%)	12(57.1%)	157(57.7%)
	4	2 (9.5%)	1 (4.8%)	10(47.6%)	6(28.6%)	16(76.2%)	10(47.6%)	5(23.8%)	8(38.1%)	10(50.0%)	8(38.1%)	10(47.6%)	12(57.1%)	9(42.9%)	107(39.4%)
	3	0	0	0	0	0	0	0	3(14.3%)	1(5.0%)	0	2(9.5%)	2(9.5%)	0	8(2.9%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	23 (100%)	21(91.3%)	22(75.7%)	17(73.9%)	18(78.3%)	17(73.9%)	19(82.6%)	18(78.3%)	18(78.3%)	17(73.9%)	15(65.2%)	15(65.2%)	23(100%)	243(81.3%)
	4	0	2(8.7%)	1(4.3%)	6(26.1%)	5(21.7%)	5(21.7%)	4(17.4%)	5(21.7%)	4(17.4%)	6 (26.1%)	8(34.8%)	7(30.4%)	0	53(17.7%)
	3	0	0	0	0	0	1(4.4%)	0	0	0	1(4.3%)	0	0	1(4.4%)	3(1.0%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	20 (87.0%)	21(91.3%)	19(82.6%)	17(73.9%)	8 (34.8%)	11(47.8%)	16(69.6%)	14(60.9%)	19(82.6%)	15(65.2%)	11(47.8%)	9(39.1%)	22(100%)	202(67.8%)
	4	3 (13.0%)	2(8.7%)	4(17.4%)	6(26.1%)	15(65.2%)	12(52.2%)	7(30.4%)	9(39.1%)	4(17.4%)	8(34.8%)	9(39.1%)	11(47.8%)	0	90(30.2%)
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3(13.1%)	3(13.1%)	0	6(2.0%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	5	19 (86.4%)	21(95.5%)	13(59.1%)	11(50.0%)	11(50.0%)	17(77.3%)	10(45.5%)	10(45.5%)	14(63.6%)	18(81.8%)	14(63.6%)	14(63.6%)	17(77.3%)	189(66.1%)
	4	3 (13.6%)	1(4.5%)	9(40.9%)	11(50.0%)	11(50.0%)	5(22.7%)	12(54.5%)	12(54.5%)	8(36.4%)	3(13.6%)	8(36.4%)	8(36.4%)	5(22.7%)	96(33.6%)
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(4.6%)	0	0	0	1(0.3%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	5	13 (61.9%)	15(71.4%)	3(14.3%)	9(42.9%)	5(23.8%)	7(33.3%)	9(42.9%)	6(28.6%)	13(61.9%)	15(71.4%)	3(14.3%)	3(14.3%)	6(28.6%)	107(39.2%)
	4	8 (38.1%)	6(28.6%)	18(85.7%)	12(57.1%)	15(71.4%)	13(61.9%)	12(57.1%)	15(71.4%)	8(38.1%)	5(23.8%)	15(71.4%)	15(71.4%)	13(61.9%)	155(56.8%)
	3	0	0	0	0	1(4.8%)	1(4.8%)	0	0	0	1(4.8%)	2(9.5%)	3(14.3%)	2(9.5%)	10(3.7%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(4.8%)	0	0	1(0.3%)
総計	5	150 (85.7%)	152 (86.9%)	115 (65.7%)	115 (65.7%)	72 (41.1%)	92 (52.6%)	114 (65.1%)	94 (53.7%)	116 (66.7%)	118 (67.8%)	64 (36.6%)	59 (36.6%)	125 (72.3%)	1386 (61.1%)
	4	25 (14.3%)	23 (13.1%)	60 (34.3%)	59 (33.7%)	100 (57.2%)	80 (45.7%)	61 (34.9%)	78 (44.6%)	55 (31.6%)	53 (30.5%)	93 (53.1%)	98 (56.0%)	45 (26.0%)	830 (36.5%)
	3	0	0	0	1 (0.6%)	3 (1.7%)	3 (1.7%)	0	3 (1.7%)	3 (1.7%)	3 (1.7%)	16 (9.2%)	18 (10.3%)	3 (1.7%)	52 (2.3%)
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (1.1%)	0	0	3 (0.1%)

セル内の数値は評価者の数。

絵本番号 1、2、7 は n = 22、絵本番号 3、4、8 は n = 21、絵本番号 5、6 は n = 23。

表3-2 製作者間における食育ぬりえ絵本の相互評価(2)

絵本番号	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	計(Q1-Q13)
1	4.91	4.82	4.86	4.86	4.45	4.55	4.95	4.73	4.82	4.55	4.05	4.00	4.86	4.65
2	4.68	4.73	4.41	4.55	4.32	4.36	4.36	4.27	4.55	4.62	4.14	4.09	4.29	4.41
3	5.00	4.95	4.9	4.67	4.29	4.38	4.71	4.67	4.57	4.62	3.86	4.00	4.90	4.58
4	4.9	4.95	4.52	4.71	4.24	4.52	4.76	4.33	4.4	4.62	4.33	4.24	4.57	4.55
5	5.00	4.91	4.96	4.74	4.78	4.70	4.83	4.78	4.74	4.74	4.65	4.61	5.00	4.80
6	4.87	4.91	4.83	4.74	4.35	4.45	4.70	4.61	4.83	4.65	4.35	4.26	5.00	4.66
7	4.86	4.95	4.41	4.50	4.50	4.23	4.45	4.45	4.64	4.77	4.64	4.64	4.77	4.60
8	4.62	4.71	4.12	4.43	4.19	4.29	4.43	4.29	4.62	4.67	3.95	4.00	4.19	4.35
総計	4.86	4.87	4.63	4.65	4.39	4.44	4.65	4.52	4.65	4.66	4.25	4.23	4.71	4.58

セル内の数値は平均値。

絵本番号 1、2、7 は n = 22、絵本番号 3、4、8 は n = 21、絵本番号 5、6 は n = 23。

2-3-6. 作者の思いの反映 (Q6)

Q6の「作者の思いが伝わってくるような絵本か」という、作者の思いが反映されているかどうかについての質問では、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が52.6%、「ややそう思う」が45.7%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均は4.44であり、他の質問項目と比べて高い数値ではない。そのような中でも評価が高かったのは「絵本5」(4.7点)である。評価がやや低かったのは「絵本8」であり、4.29点であった。

2-3-7. 読み聞かせに値する絵本か (Q7)

Q7の「幼児に実際に読み聞かせたくなるような絵本か」という絵本の価値に関する質問では、表最下段の総計の数値が示すように、全員が「とてもそう思う」(65.1%)もしくは「ややそう思う」(34.9%)と答えている。全体の平均点は4.65であり、かなり高い数値を示している。そのような中でも評価が高かったのは「絵本1」(4.95点)である。評価がやや低かったのは「絵本2」であり、4.36点であった。

2-3-8. 何度でも読みたいか (Q8)

Q8の「幼児がいつまでももっていて、何度でも読みたいくなるような絵本か」という、これも絵本の価値に関わる質問であるが、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が53.7%、「ややそう思う」が44.6%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均は4.52であり、中でも評価が高かったのは「絵本5」(4.78点)であった。評価が低かったのは「絵本2」であり、4.27点であった。

2-3-9. 探究的要素をもった絵本 (Q9)

Q9の「(食に関する)あることを探究する内容になっているか」という質問については、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が66.7%、「ややそう思う」が31.6%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均点は4.65であり、中でも評価が高かったのは「絵本6」(4.83点)である。評価が低かったのは「絵本4」であり、4.4点であった。

2-3-10. 料理づくりを絵本に入れた効果 (Q10)

Q10の「絵本の中の料理を自分でも作ってみたいか」という質問については、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が67.8%、「ややそう思う」が30.5%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均点は4.66であり、中でも評価が高かったのは「絵本7」(4.77点)であった。評価が低かったのは「絵本1」(4.55点)であった。

2-3-11. 食習慣形成 (Q11)

Q11の「読み聞かせによって、幼児によき食習慣をつけることができるか」という質問については、表最下段

の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が36.6%、「ややそう思う」が53.1%、「どちらともいえない」が9.2%、「あまりそう思わない」が1.1%、となっている。全体の平均点は4.25であり、他の質問項目より低い得点であった。評価が高かったのは「絵本5」(4.65点)であり、評価が低かったのは「絵本3」(3.86点)であった。

2-3-12. 食の情意的側面 (Q12)

Q12の「読み聞かせによって、幼児に食を大切にしようとする気持ちが芽生えると思うか」という質問については、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が36.6%、「ややそう思う」が56.0%、「どちらともいえない」が10.3%となっている。全体の平均は4.23であり、評価が高かったのは「絵本7」(4.64点)と「絵本5」(4.61点)であった。評価が低かったのは「絵本1」、「絵本3」、「絵本8」で4.0点であった。

2-3-13. 学習教材としての価値 (Q13)

Q13の「学びや遊びの要素を含みしかけなどが工夫された総合的学習教材か」という質問については、表最下段の総計の数値が示すように、「とてもそう思う」が72.3%、「ややそう思う」が26.0%、「どちらともいえない」が1.7%となっている。全体の平均点は4.71であり、特に評価が高かったのは「絵本5」、「絵本6」(5点)であった。評価がやや低かったのは「絵本8」(4.19点)であった。

2-3-14. 各質問項目 (Q1~13) の平均点による順位

Q1~Q13の各質問項目を、平均点が高い順に並べると、1)「Q2 (4.87)」、2)「Q1 (4.86)」、3)「Q13 (4.71)」、4)「Q10 (4.66)」、5)「Q4 (4.65)」、6)「Q7 (4.65)」、7)「Q9 (4.65)」、8)「Q3 (4.63)」、9)「Q8 (4.52)」、10)「Q6 (4.44)」、11)「Q5 (4.39)」、12)「Q11 (4.25)」、13)「Q12 (4.23)」となる。

2-3-15. 相互評価による絵本の順位

表3の右端の列に、各絵本がQ1~Q13の質問項目において得た得点の合計を、評価者の人数で割って算出した平均点を記した。平均点は、高い順に1)「絵本番号5 (4.8): おおきくなりたいな」、2)「絵本番号6 (4.66): PIZZA」、3)「絵本番号1 (4.65): SNACKS」、4)「絵本番号7 (4.6): あさごはん」、5)「絵本番号3 (4.58): PIZZA」、6)「絵本番号4 (4.55): PIZZA」、7)「絵本番号2 (4.41): クリスマスクッキー」、8)「絵本番号8 (4.35): PIZZA」であった。

3. 考察

本研究における取り組みは、次の2点を展望としている。一つは、食育ぬりえ絵本の製作を通して食に対する関心や理解が高まるといった製作者自身に対する教育的

効果である。そして、もう一つは、製作した食育ぬりえ絵本の読み聞かせなどを通して、聞き手（例えば、幼児や児童、生徒）に対する食育の普及・啓発といった教育的効果である。

本研究では、はじめに、教育学部学生に食育ぬりえ絵本を製作させた。絵本製作においては、Monica Wellington 著のcoloring bookのうちCOLOR & COOKシリーズというストーリー性のあるぬりえ（ぬりえ絵本）の場面やイラストを挿絵の一部として用いつつ、ストーリーなど独自性のある絵本が製作された。食育ぬりえ絵本完成後、製作者らは、自作の絵本を保育園に持参し幼児に向けて読み聞かせを行い、その後、絵本製作者同士でも作品の読み聞かせをして互いに絵本の出来映えなどを相互評価した。製作者同士での読み聞かせと相互評価を実施したのは、食育ぬりえ絵本の質について客観的な判断材料の一つとするため、さらには、他のグループの絵本における工夫等を知ることを通してお互いの学習効果を高めるためであった。

幼児への読み聞かせを行った際の気づきとしては、絵本の仕掛けを工夫したことにより幼児の興味をひくことができたことが、絵本番号5、6、7、8の製作グループの回答からうかがわれる。ただし、絵本内容の難易度や、絵本装飾の脆弱性といった点で反省的なコメントもいくつか挙げられた。具体的には、絵本番号7や8の製作グループは、絵本の内容が幼児にとって難しかったりわかりにくかったりする部分があったことを指摘している。また、絵本番号6の製作グループは、幼児が仕掛けに興味を示したくさん触った結果、パーツが破損したことを報告している。繰り返し読むにたえるような絵本にすることが必要である。

各質問項目についての回答を検討した結果、8冊の製作された絵本は、絵の美しさをはじめとして造形的には素晴らしい出来映えであったと評価された。また、食に関する豊富な学習内容や、興味深い仕掛け、さわって楽しめるタッチ・アンド・フィールの要素など、作品の創意工夫に対して、学生は高い得点を与えた。しかし、各絵本の質問項目別得点と総合得点を見ると、些少ではあるが差が見られた。

1～3位までの高得点項目が示すように、製作された絵本において他グループの学生に最も評価された点は、挿絵の美しさといった出来映えの素晴らしさや、学びと遊びの両方における工夫であった。これは、絵本作家であるMonica Wellingtonのcoloring bookの場面・イラストをカラーージュしたことにより、挿絵の質が確保されたためと考えられる。続く高得点群である4～8位までの質問項目が示すように、ストーリーがわかりやすく、食に関する探究的な要素が盛り込まれていて、幼児が喜

びそうな絵本であった点が評価された。表2から、学生は、見開き7ページという限られたページ数の中でいかに食に関する教育的要素を盛り込みつつ幼児を楽しませるか、といった点で苦心しながら絵本製作に取り組んだことがうかがわれるが、その甲斐があったといえよう。9～11位までの項目から、製作者の思いを反映させることや、幼児を感動させて何度も読みたいという気持ちを起こさせるという点では、他の項目と比べてやや評価が下がっている。製作した絵本によって幼児のよき食習慣や食を大切にする気持ちを醸成できるかを問うた項目は、12位、13位であり、幼児の感情に強く訴えかける要素を、食育ぬりえ絵本に盛り込むことの難しさが明らかとなった。

個々の食育ぬりえ絵本に着目すると、最も高い評価を得たのは、「おおきくなりたいな（絵本番号5）」であり、もっと評価が低かったのは「PIZZA（絵本番号8）」であった。両方の作品を比較してみると、まず前者は十分に準備がなされた上での製作であり、そのためストーリーが楽しく、躍動感のあることばと丁寧に塗られた画面、ユニークな仕掛けが読み手の気分を高揚させる。それに比して後者は、絵本に装飾や仕掛けがほとんど施されておらず、画面が全体的に地味であった。このグループのレポートには、調べ学習をした結果を絵本に生かそうとしたが、難しい内容になってしまったこと、もう少し子どもが興味を持てるような仕掛けや工夫をして、遊びの要素を取り入れるべきであると思ったことが述べられていた。食育ぬりえ絵本製作時に食に関する教育的内容を組み込むよう指示したが、それにより絵本の難易度が幼児向けではなくなってしまう可能性は否めない。これは今後検討すべき課題である。

13の質問項目ごとの得点比較から見た問題点は、製作された絵本は、よき食習慣や食を大切にする気持ちを醸成できるまでには至っていないのではないかとやや疑問視されたことである。しかしながら、絵本の利点は、手元においておくことができ、いつでも何度でも読み返すことができることである。良質の食育ぬりえ絵本により、年少の子どもが、絵本の世界を楽しみながらよき食習慣を身につけ、食への興味を深めることができるとすれば、他の先進国と同様に食の乱れが問題となってきたわが国にとって何よりの福音である。

教員を目指す学生たちが、絵本製作を通して食育に向かい合ったことは、教育の対象となる子どもたちのためだけでなく、自己の健康管理や食の楽しみにつながるよい経験であったと思われる。

今回のアンケート調査が示すように、学生の自己評価や学生同士の相互評価においては、食育ぬりえ絵本は高い評価を得た。しかし、実際に保育園において、保育士

が読み聞かせをした場合も同様の結果になるのであろうか。引き続き、この点について明らかにしたい。

注釈

注1) Monica Wellington 著の5冊のcoloring book (COLOR & COOK シリーズ: 「CUPCAKES」, 「PIZZA」, 「BREAKFAST」, 「CHRISTMAS COOKIES」, 「HEALTHY SNACKS」) の主人公は、2人のかわいい子どもたちである。1人はMollyという名前の姉で、もう1人はJackという名前の弟である。これらのcoloring book (以下、ぬりえ絵本とする。) の主なストーリーは、子どもたちが、日常生活の中で食材を購入したり収穫したりした後、自分たちで簡単な料理を作り、両親や近隣の人々・友人にふるまって喜ばれるという単純明快なストーリーである。どのぬりえ絵本でも、かわいいキャラクターが生き生きと活動していて料理を作る楽しさが強く伝わってくるとともに、子どもでも作ることができるような簡単なレシピが巻末にいくつか紹介されている。「CUPCAKES」は、2人が友人を招いてカップケーキを作り、一緒に食べて楽しむという話である。カップケーキの多種多様なトッピングが魅力的で、カップケーキを作ってみたいという気持を呼び起こす内容になっている。「PIZZA」では、子どもが大好きなピザを最も新鮮で最もおいしく作る簡単な方法が示されている。MollyとJackは、トッピングに様々な工夫を凝らしながらおいしそうなおピザを作り、友人と一緒に食べるという内容になっている。「BREAKFAST」では、いつも働いてくれている両親のために、ある日曜日の朝、2

人で朝食を作るという話である。パンケーキとワッフル、新鮮な果物という、子どもにも簡単に作ることのできる愛情のこもった朝食が登場する。「CHRISTMAS COOKIES」は、二人がクリスマス用の様々なクッキーを焼いて、家族で食べて楽しんでいるところにサンタがやってくるというストーリーである。クッキーの作り方が分かりやすく説明されている。「HEALTHY SNACKS」は、2人が農場でとれた新鮮な野菜や果物を使って友だちのために軽食を作るという話であり、健康的なおやつについて子どもたちに知らせる内容になっている。これら5冊のぬりえ絵本は、作物の収穫や食品の購入、料理の楽しさ、簡単な作り方といった調理プロセスに関連する内容に加えて、みんなで食べる楽しみを伝えるものであり、日本の食育ぬりえには見られない優れた構成となっている。

注2) 例えば、絵本番号1を製作したグループが読み聞かせを行っているときの聞き手は、絵本番号2～8を製作したグループの学生であり、彼らが1の食育ぬりえ絵本を評価した。

注3) 学生は、食育ぬりえ絵本に盛り込んだレシピに基づいて実際に調理を行い、できあがった料理・お菓子を写真撮影して、レシピとともにその写真を絵本の最後に掲載した。

引用・参考文献

- 1) 柴英里「アメリカのcoloring bookを利用した食育ぬりえ絵本の製作と自己評価」、高知大学教育学部研究報告、第72号、印刷中。

Mutual Evaluation of Picture Books for *Shokuiku*, Applying
American Coloring Books, through University Students
Reading Aloud to each Other

Eri SHIBA